

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 31日

事業所名)放デイ エスタスカーサ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		クールダウンが必要な時に対応できる部屋を用意している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		スタッフ1人:利用者2人以上にならないよう配慮している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		スロープ・車椅子用トイレ等の配備。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		報告・連絡・相談の徹底。日々情報交換を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果を職員間で共有し、業務改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		当事業所ホームページにて公開。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部評価結果を職員間で共有し改善。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		理事長研修、外部研修等積極的に受講している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		事業所内会議、担当者会議等で個々に適した、長期・短期目標を設定。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		日々の活動記録、事業所内の日報等を活用。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		翌月の予定表作成時に職員間で話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の嗜好を鑑みながら策定している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休みは昼食作り、掃除など生活力を身につける活動を心がけている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		基本的には、活動を強いることなく児童自らがやりたいことを決め、それに寄り添うスタンス。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ホワイトボードを活用し、利用者・送迎時間・担当を記載し明確化している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了時の話し合いは勿論、不在のスタッフにもわかるようSlack上の日報にて共有。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		Slack上の日報でその日のうちに記録する事を徹底。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		相談支援事業所と連携して6ヶ月毎に実施。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		現場で日々支援に携わっている者、児童発達管理責任者が参画。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		担任と必ず顔を合わせ日々の申し伝えを行い、必要に応じて学校での会議を設定している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要な児童の受け入れはしていないが、今後受け入れる場合は、看護師の配置や主治医との連携体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		新一年生に関しては利用前に必ず通園場所に行き情報共有と相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		まだ卒業した児童はいないが、来年卒業予定の児童がいる為、相談支援事業所等と連携し情報を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		小学校の校庭に遊びに行ったり、地域の児童が遊びに来たりするため日々交流している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に必ず顔合わせし、話をしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		育児に関する講座を講師を招き行っており、保護者にもご参加いただいている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		ご見学、ご契約時に時間をかけて丁寧にしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ご相談があれば親身になって対応するようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ペアレント・トレーニング、育児講座、餅つきイベント等交流の機会を設定し支援している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		今までに苦情を受けたことがないが、受けた場合には迅速に対応する準備はできている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1のペースでエスタス通信を発行し、情報発信に努めている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵のかかる棚に保管。不要に持ち出さない。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		相手の立場、目線に合わせた対応を心がけている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		毎月、通信を発行かつ配布して行事への参加も促している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		契約時に配布。また、通所ファイルにもファイルしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		日々避難場所である校庭へ。年2回避難訓練実施。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員間研修を行う。	今後、外部研修受講を積極的に行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		現在、身体拘束が必要な児童の受け入れはないが必要性のある児童を受け入れる場合には、しっかりと保護者と連携し、サービス計画書に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書がなくても保護者の申告により対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		Slack上で事例を掲載、対策を講じ、共有している。	